

## 防府市立防府図書館設立の由来

当館の前身は、昭和16年4月に開館した防府市立三哲文庫です。

当市江泊出身の元枢密顧問官上山満之進翁(明治2年～昭和13年)は、防長の先覚者吉田松陰・品川弥二郎・乃木希典を三哲として、その遺風を顕彰し郷土の文化発展に寄与すべく、文庫(図書館)の寄附を防府市に申し出ましたが、昭和11年12月病に倒れ、初志を全うできませんでした。このため、満之進翁の嗣子上山勝氏並びに甥の小野幸吉氏が翁の遺志を引き継ぎ、東京高輪の上山氏邸宅を処分して昭和15年2月8日防府市三田尻村藤本町に起工、同年12月20日竣工し、建物と蔵書が市に寄附されました。翌昭和16年4月1日、防府市立三哲文庫の名称をもって開館、一般の利用に供されるようになりました。

昭和10年に満之進翁が文庫の設立寄附を市に申し出たのち、不幸にして翁は病臥し、一方においては建設用地選定が難航していました。さらには日中戦争の勃発による建設資材の価格騰貴・統制等、幾多の困難のため、建物の規模はやむなく翁が当初企画した三分の二に縮小されました。この難事業は、翁の初志を万難を排して遂行しなければならないとする、上山勝氏と小野幸吉氏の強固な意志があってようやく実現したのでした。

終戦後の昭和21年8月10日、三哲文庫は防府図書館と改称されました。

昭和56年7月30日、設立以来40年の歳月を経た建物が老朽化したため、防府図書館は防府市桑山二丁目に新築移転しました。

さらに平成15年5月、防府駅てんじんぐち市街地再開発事業で整備する駅前の公共公益施設の中に、図書館が移転することが決定されました。

こうして平成18年11月1日、防府市栄町一丁目の市街地再開発ビル(愛称ルルサス防府)3階に「まちなか図書館」として開館し、現在に至っています。



防府市中央町(旧藤本町)にあった旧防府図書館